

学校法人五島育英会 学校評価（自己評価）制度 2022年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	荒屋 勝寿

重点目標Ⅰ 良質な教育の実践					
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
社会の変化、保護者ニーズに応えるスポーツ分野、芸術分野の 課外教室の充実を図る。 ・新規課外教室（サッカー教室・ミュージカル教室）の実施に伴う環境整備及び活動の総合的な検証 ・次年度以降の新規課外教室の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教室実施に伴う備品・用具等の環境整備を行う。 ・参加園児数・技能の向上・ねらいの達成状況等、多角的な観点から検証する。 ・遊戯室以外でできる課外教室の調査・研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境整備ができたか。 ・定員を充足したか。 ・園児・保護者が満足したか。 ・具体的な検討がされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サッカーあそび、ミュージカルあそびの備品・用具を揃えることができた。事故、ケガ無く一年間実施。 ○サッカーあそびは、年中クラス定員24名、年長クラス定員24名を各クラス32名に増員して実施。ミュージカルあそびは、30名1クラス開講予定を36名、34名の2クラス開講とし、1クラス増で実施。 ○アフタースクールを企画運営している会社との話し合いを1回実施。打ち合わせの継続を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課外あそび成果発表会の企画運営内容の検証と改善。 ○課外あそび教員配置の検討。 ○遊戯室以外での課外教室の実施検討の継続。 	

<p>本園の教育目標である「豊かな心とたくましい体」の実現に向けて体づくり教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正課運動教室の充実 ・体づくりプログラムの実施 ・歯ブラシ教室の実施・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・正課運動教室の検証と改善に取り組む。 ・過去3年間の5歳児(年長)の虫歯罹患率を整理し、全国・東京都と比較する。 ・年少からの虫歯罹患率の調査を開始し、罹患率の経年変化を追う。 ・歯ブラシ教室を継続実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の向上が見られたか。 ・年少から年長までの虫歯の罹患率の数値化ができたか。 	<p>○正課運動あそび 年少クラスは全員が楽しんで参加できるようになり、自分の体をコントロールすることができるようになった。年中クラスは、ブリッジ、前転、補助倒立、跳び箱、鉄棒など、教わった動作や技を体得し、ほぼ全員ができるようになった。年長は、壁倒立や跳び箱、鉄棒でのツバメ、前回り、足抜き周りなどをほぼ全員ができるようになった。</p> <p>○3学年の虫歯罹患率の数値化ができた。 年少 5.8%、年中 5.8%、年長 12.7%といずれも全国平均(2021年度 26.49)を大きく下回った。</p>	<p>○運動能力向上の検証</p> <p>○園目標虫歯罹患率 12%以下達成と具体的取り組みの検討</p>
--	--	---	--	---

重点課題② サポート体制の充実				自己評価	S
本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>預かり保育に対する非常に高い保護者ニーズに応える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の拡充(午前保育・長期休業期間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前保育の預かり保育(長期休業中前・水曜日)を全学年対象に実施する。 ・長期休業中の預かり保育日数を増やす。 ・幼稚園教育と子育て支援、さらに財務の三つの観点から、今後の預かり保育の方向性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度平日利用者総数3,108人の9割まで回復できたか。 ・3つの観点からなる検討報告書ができた 	<p>○平日(4月～3月)利用者数3,483名と評価観点の1.12倍であった。夏季休業前午前保育期間214名、夏季</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○預かり保育の教員配置人数の検討・改善。 ○預かり保育のメニュー検討。 ○報告書を作成する目的 	

	検討する。	か。	休業中 324 名、冬季休業前午前保育期間 328 名、冬季休業期中 102 名。年間合計 4,451 名利用（※春季休業前午前保育期間、春季休業中を除く）。教員配置シフト表を作成し、就業状況の“見える化”を実現し働き方の改革を行った。 ○幼稚園教育、子育て支援、財務の観点からの報告書は作成準備中。	等について検討。
--	-------	----	---	----------

重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上				自己評価	SS
----------------------------	--	--	--	------	----

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
幼稚園と保育園の大きな違いの一つに教育の研究と修養の充実の差があり、良質の教育を提供するため、教員の不断の研修を推進する。 ・外部研修参加延人数 60 人 ・塩尻高校、付属中高、等々力中高視察研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 東京都私立幼稚園協会夏季研修会、世田谷区研究発表会を悉皆研修とする。 園内研修会を定期開催する。 コロナの影響が減少すれば、計画通りの視察研修を実施する。塩尻高校の視察研修は 2 名増員する。 	<ul style="list-style-type: none"> 延 60 人の参加があったか。 定期研修会ができたか。 視察研修ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修（夏・冬・春）参加、オンライン研修を含め延 92 名参加。 ○PC 研修、ICT 研修、教務部主催研修を実施することができた。 ○8 月 31 日に園長含め 7 名で塩尻高校への視察研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修への参加を促進する。 ○教務部主催研修の定例化を検討。 ○小学校、中学校等学校への視察研修の検討実施。

重点課題④-1 ICT を利用した教育計画				自己評価	SS
------------------------------	--	--	--	------	----

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
ICT 化社会の急激な進展は、小中高の学習活動に大きな変化をもたらしていることを踏まえ、	・年長用タブレット 14 台を配備し、ICT を活用した教育プログラム「KitS」を開始する。	・「KitS」が課題あそびの中に位置付いたか。	○毎月 2 回 KitS を課題あそびに組み込んで実施。グループ活動	○年間を通した KitS 研修への参加。 ○ライブ配信技術の習

<p>幼少接続の観点から ICT 機器を活用した新しい幼児教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した新しい「課題あそび」の開始 ICT を活用した園行事の配信 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、発表会等のライブ配信を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現する力や創造性を育むことができたか。 年間を通してライブ配信ができたか。 	<p>によるチームワーク力、自分の思いや意見を発表するプレゼンテーション力がつき、タブレットを使ったあそびの楽しさを知った様子を確認。</p> <p>○小学校、大学の協力を得て、行事等のライブ配信ができた。</p>	<p>得。</p>
---	--	---	---	-----------

重点課題④－2 国際化計画				自己評価
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>社会の国際化の進展を受けて、英語学習が幼児教育の一つの柱となっていることを踏まえ、国際化教育の一環としてサイバードリーム（SD）による英語活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> SD の継続実施 SD の外国人講師による英語活動及び教員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> SD による英語活動を毎日 10 分間、年少から年長まで継続実施する。 外国人講師による英語活動及び教員研修を年 2 回実施する。 SD を導入して 3 年経過した。この英語活動の教育効果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日 10 分間の英語活動が実施できたか。 教員の機器活用のスキルが向上したか。 教育効果の検証ができたか。 	<p>○各学年各クラスほぼ毎日実施することができた。</p> <p>○機器の操作・活用がスムーズに行えるようになった。</p> <p>○SD 外国人講師による英語活動を全学年全クラスで実施。</p> <p>○小学校、中学高等学校のネイティブ講師による英語活動を年中クラス、年長クラスで実施。</p> <p>○教育的効果の検証はできていない。</p>	<p>○メニューのバージョンアップを図る。</p> <p>○SD ネイティブ講師の効果的な派遣時期の検討。</p> <p>○SD ネイティブ講師の派遣回数増加の増加検討。</p> <p>○SD 教員研修時期の検討及び実施。</p> <p>○教育的効果の測定方法の検討。</p>

重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大					
重点課題 各学校の連携強化				自己評価	B
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
都市大グループ校との連携は本園の重要施策の一つである。 ・都市大人間科学部学生サポーター制度の推進 ・等々力中高、附属小学校ネイティブ教員による英語活動の実施 ・等々力中高の理科部による科学体験教室の実施 ・塩尻高校生の職場体験受け入れに伴う課題抽出	・コロナの影響が減少した場合、各種行事で延べ100人の学生サポーターを受け入れる。 ・ネイティブ教員による年中、年長対象の英語活動を実施する。（各学期1回） ・科学体験教室を年中、年長で実施する。 ・職場体験導入に係る課題について整理し、塩尻高校と共有する。	・各種行事に何人の学生サポーターが参加したか。 ・定期的にも実施できたか。 ・実施に向けての課題が整理できたか。	○夕涼み会6名、運動会6名、芋掘り1名の合計13名（昨年度は12名）。1月30日に今後の幼大連携について大学との打ち合わせを実施。 ○附属小学校、等々力中高からネイティブ講師を招いて年中クラス、年長クラスで各学期1回英語活動を実施。定期開催ができた。 ○等々力中高理科部の科学体験教室を年中、年長クラスで実施。 ○塩尻高校生徒の職場体験は2023年度計画、2024年度実施へと変更を決定。	○打ち合わせを踏まえた幼大連携の具体化。 ○ネイティブ講師、等々力中高理科部科学体験教室の継続実施。 ○塩尻高校職場体験導入を計画立案。	
重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実					
重点課題 学習環境の整備・充実				自己評価	SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
・園庭総合遊具（アスレチック）の修繕 ・老朽化している備品の更新	・アスレチックのリニューアルを行う。 ・年中の長机、暖飯器を新規購入する。	予定通り整備できたか。	○アスレチックの整備点検を予定通り実施。	○今後中期事業計画に基づき、着実に計画を実行する。	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御ネット張替え※ ・ 安全シート交換※ ・ 園庭花壇の整備※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経年劣化した防御ネットを張替え、ケガを防止し、のぞかれを防止して、活動する園児の安全を確保する。 ・ 経年劣化した安全シートを交換し、転倒によるケガを防ぎ、園庭活動の安全性を高める。 ・ 花壇を設置し、植物の観察などにより理科的なものに興味をもつきっかけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年中長机、暖飯器を予定通り購入。 ○ケガを防止し、安全性が保たれたか。 ○ケガを防止し、安全性が保たれたか。 ○植物に興味を持つことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ケガを防止し、安全性が確保された。 ○サッカーあそびの際の転倒が減った。 ○花壇にある草花の観察をする姿が多くみられ興味関心が高まった。 	
重点課題 効率的業務の推進				自己評価 A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>2019 年度に導入した園業支援システム（パステル）によって、教員の事務作業の効率化は著しく進んだことから、今後も ICT 化を加速させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園業支援システムパステルの運用の充実 ・ パソコン研修会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パステルの校務処理一覧を作成し、責任者を明確にする。 ・ PC 研修会を年 6 回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務処理一覧ができたか。 ・ 教員のスキルが向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務処理一覧作成済。 ○パソコン研修 3 回実施。教員のスキル向上は検証できていないが、園務処理において問題は発生していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペーパーレス化のためのパステルの活用促進。活用から課題・改善点を洗い出す。 ○「KitS おうちえん」導入を決定。使用しながら課題・改善点を洗い出す。
募集広報活動				自己評価 C
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>区内 59 園の全体入園手続者見込数は昨年より 240 人少ない 2,385 人で、3 年連続の大幅な減であり、定員確保は必須である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での安全・安心な説明会の実施 ・ 目標数値、夏期説明会参加家庭数 170 家庭、志願者数 110 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月に定員上限 35～40 家庭とする説明会を 6 回、10 月に 1 回の計 7 回開催する。 ・ WEB 出願を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明会参加家庭数、志願者数の目標数値が達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明会 7 回実施。159 家庭 302 名参加。志願者数延 87 名（昨年 99 名）。家庭数、志願者数は目標未達。 	<ul style="list-style-type: none"> ○区内就園児数が急激に減少。安定的な定員確保が課題。 ○保育見学会・説明会を 7 回から 13 回へと 6 回増。実施と検証を行う。
その他学校目標				
学校課題① 安心・安全な幼稚園				自己評価 A

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止の徹底を図り、平常の教育・保育活動を維持することが重要課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止の徹底 ・防災・防犯・園内事故防止等の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の感染防止対策に基づき、着実な感染防止、衛生管理を行う。 ・施設・遊具チェック表及び保育安全指導チェック表等を用いた定期点検を行う。 ・怪我の月別統計等を活用し、怪我の防止を図る。 ・AED研修等、緊急時対応訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染を防ぐことができたか。 ・園児の怪我が減少したか。 ・緊急時の対応が身に付いたか。 	<p>○園児延 18 名、教員延 4 名の感染を確認（昨年度園児延 17 名、教員延 3 名）。園内の感染拡大はある程度防ぐことができた。</p> <p>○園児のケガ件数は 10 件と昨年度より減少した(昨年度 21 件)。</p> <p>○熱性けいれん、アナフィラキシーショック発生時の対応訓練研修を実施。</p>	<p>○通常保育教育活動を行い感染症防止対策を徹底する。</p> <p>○「ケガ 0」意識を持つことを全教員で確認。</p>

学校課題② 私立小学校の理解を深める

自己評価 SS

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>本園の私立小学校への進学は約 1/3 で、保護者の進学ニーズは比較的高いことから、そのニーズに応えるための説明会等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部進学制度附属小学校説明会の実施 ・私立小学校の魅力を知る説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部進学制度説明会を年長、年中を対象として実施する。 ・副園長による希望者対象の私立小学校説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部進学制度や私立小学校への理解が深まったか。 	<p>○5月30日に年少・年中・年長保護者対象に「私立小学校を知る」をテーマに副園長講演を実施。保護者の理解が深まった。</p> <p>○6月13日に年少・年中・年長保護者対象に小学校校長、教頭による内部進学説明会を実施。保護者の理解が深まった。</p>	<p>○説明会の実施と検証。</p>

学校課題③ 「あそびによる学び」のさらなる充実

自己評価 SS

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>本園の教育の特長は「課題あそびと自由あそび」「食育」「本物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定を感染拡大の状況を勘案しながら月別行事予定で確定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事が円滑に実施できたか。 	<p>○学年別夕涼み会、学年別誕生会、運動会、</p>	<p>○通常に戻して保育教育を実施。</p>

<p>に触れる教育」「多文化教育」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に於ける本園の特長ある教育活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・三人行事「運動会・発表会・音楽会」を保護者参観で行う。 ・文科省の「学校の新しい生活様式」に依拠し、安全・安心な教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を実感してもらえたか。 ・本園の特長の教育活動を実施できたか。 	<p>発表会、音楽会、遠足、マラソン大会等感染防止対策優先で実施。</p> <p>○行事活動の内容と場所を考慮し、学年別、クラス別、全体での参観を実施。成長を実感する場面を共有。</p> <p>○各行事、マスク着用無し、歌唱あり、参観人数の拡大を実現し実施。</p> <p>○「課題あそび」「自由あそび」「課外あそび」の“三本柱”をバランスよく実施。</p>	
---	--	---	---	--

学校課題④ 幼稚園と保護者との意思疎通の深化と協働による教育活動の実現 自己評価 SS

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>よりよい教育を実現するためには学校と保護者との連携・協力が必要不可欠である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との意思疎通の深化を図る。 ・「父母の会」との連携・協力を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ「てのりの」を使った保育参観を含め、参観の機会を多く設ける。 ・保護者の心に寄り添う丁寧な面談を実施する。 ・園だより、学年だより、保護者会等で、行事の詳細や園の考え方を丁寧に説明する。 ・三人行事の衣装づくり等を含めて、行事への協力機会を設ける。 ・卒園児保護者満足度調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な保育参観ができたか。 ・面談で意思疎通が図れたか。 ・保護者の協力が得られたか。 ・総合満足度の「満足」が90%以上占めたか。 	<p>○人数を制限しての参観を実施。</p> <p>○担任・副担任で面談を実施し、保護者と意思疎通を図る。</p> <p>○コロナ禍での保育教育活動・行事について、感染対策に協力と理解は得られた。</p> <p>○満足度調査で「満足」が95%であった。</p>	<p>○学年ごとの満足度調査の実施検討。</p>

校（園）長による総括

総括評価は、各重点課題評価を総合的に判断して「S」とした。

第2期事業計画（2021年度～2025年度）の2年目に当たる2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策の運用と保育教育活動の具体的な場面との整合性が求められた一年であった。このような経過の中で、重点課題の達成に向けて園児の健康と安全、命を守ることを大前提としながら、教職員による慎重を期した取り組みと工夫が必要であった。新型コロナウイルスの感染症の法上の位置づけ変更等の議論を背景に、保育教育活動への保護者の意識や思いに変化が生じ始めた。保護者の思いを受け止めながら、教職員が目標達成に向けて取り組んだことは高く評価できる。

総合
評価

S

1. 昨年度より継続実施してきた感染防止対策

①登園前の体温のパステル入力 ②登園時サーモカメラによる体温測定 ③園長による園児の掌へのアルコールスプレー ④ペーパータオルの整備（トイレ・手洗い場） ⑤園児のマスク着用 ⑥保育室加湿・空気洗浄機（プラズマクラスター）設置、換気用サーキュレーターを設置、昼食時及び制作活動時のパーテーション設置 ⑦園児降園後の各保育室・遊戯室等の消毒（机・椅子・おもちゃ等・床・ドア・手摺・園庭遊具・トイレ等） ⑧行事等のクラス別、学年別の実施 ⑨保育室内への保護者立入制限 ⑩3学年時差登降園及び年中組、年長組の園庭降園

2. 新型コロナウイルス感染症の感染状況

2022年4月8日から2023年3月18日までの陽性者数は、園児延18名、教員延4名であった。臨時休園と学年閉鎖はなかったが、学級閉鎖を9回行った（昨年度臨時休園1回、学年閉鎖1回、学級閉鎖4回）。この間保護者に対して、陽性者発生と濃厚接触者調査結果及び園の対応をその都度文書で発出した。発出した文書数は26通。（昨年度33通）

3. 教育活動

(1) 通常に戻すことを念頭に置いた教育活動

○できる限り通常保育教育活動に戻すことを念頭に置いた。特に10月以降に行った運動会、発表会、音楽会では、練習場所となる園庭、遊戯室では園児のマスク着用を原則なしとし、歌唱を復活し、保護者の参観を2名へと拡大するなど緩和措置を取った。熱中症予防期、運動活動、園舎外活動、登降園時は、マスクの一律の着用を求めないこととした。3学期後半は、園庭遊びは3学年同時と通常に戻した。一年が経過する中で、感染が広がらないために儀式、保護者会、園庭遊び、誕生会等は、学年が交わらない工夫を行いながら教育活動を展開した。

○春の遠足、夕涼み会、歩き遠足を実施した。春の遠足は砧公園、夕涼み会は年少・年中組、年長組の時間を分けて行い、歩き遠足は現地での昼食と各学年の活動を工夫して実施した。

○三大行事の運動会、発表会、音楽会は、保護者の参観を学年別・クラス別とし、参観は2名までとした。定期保育参観は、分散を促して3日間設定で行った。これまで感染防止のために多くの場面で保護者の園内立ち入りを禁止・制限してきたが、参観環境をしっかりと整えることにより、感染予防と参観のしやすさを実現できた。保護者の思いに寄り添うような教育保育を工夫しながら実施できたことは、教員の努力によるものである。卒園式を卒園児がマスク着用なしと

して行えたことは、成長を見届けたいという保護者の願いに沿えたと考えている。

○本年度開始した課外の「サッカーあそび」、「ミュージカルあそび」は、希望者が多く定員を増やしたり、開講クラス数を増やしたりして実施した。各あそびそれぞれに設定した目標は達成できた。何よりも、参加した園児が楽しそうに取り組んでいる姿を確認できた。最終回では、それぞれ保護者を招待して「お披露目会」を行うことができ、課外スタッフと教員が連携して試行錯誤しながら運営してきた。各スタッフとの総括をもとに、より良い運営を行いたい。

(2) 国際教育

英語教材サイバードリームを使用して、各学年毎日10分間の英語活動を行っている。1月にサイバードリーム・ネイティブ講師が来園し、年少、年中、年長組で直接園児と対面して英語活動を実施した。画面上のネイティブ講師が実際に保育室に現れ、色やくだもの、生活に関する単語を発音し、ジェスチャーを交えながら体と目と耳で英語活動を楽しんだ。また、付属小学校、等々力中学校・高等学校から学期に一回ネイティブ講師が来園し、歌をうたったり、ゲームをするなどの英語活動を行った。

(3) 健康な体づくり

①正課運動あそびでお披露目会を実施

専門のコーチによる体系的なプログラムにより、自分の体をコントロールすることができるようになった年少組、ブリッジ、前転、補助倒立、跳び箱、鉄棒など、教わった動作や技をほぼ全員が体得した年中組、壁倒立や跳び箱、鉄棒でのツバメ、前回り、足抜き周りなどをほぼ全員ができるようになった年長組、全学年で運動能力向上につながる姿が見られた。今年度は、初めて、一年間の運動あそびの成果を保護者の前で披露する「お披露目会」を全学年で実施した。保護者の前で運動を披露する園児は嬉しそうな様子だった。保護者にとっては、運動の成果を確認できた時間となった。

②歯の健康

年長児の虫歯の罹患率は、12.7%（昨年度14.3%）で昨年度より向上した。全国平均が26.49%であることからわかるように、罹患率の低さのみならず未処置の園児がいなかったことは、保護者の意識の高さを物語っている。校医（歯科）による歯ブラシ教室を全学年で実施した。今後も継続実施する予定である。

4. 預かり保育

平日（4月～3月）利用者数は、3,483名と目標であった3,018名を上回り、1.12倍となった。夏季休業前午前保育期間214名、夏季休業中324名、冬季休業前午前保育期間328名、冬季休業期中102名で、年間合計4,451名の利用があった。（※春季休業前午前保育期間、春季休業中を除く）。教員配置シフト表を作成し、就業状況の“見える化”を実現し働き方の改革を行った。しかしながら、保護者の就業関係から実施日数や実施時間の拡充を求める声があり、それに応える教員体制をつくっていききたい。通常保育を兼務する教員が担当するため、園運営全体を考えると教員の増員は至急の課題と捉えている。

5. 分掌業務

①事務部

補助金申請（東京都・世田谷区）については、該当事業の精査、申請書類等の提出等、遅滞なく正確に行うことができた。預かり保育利用料の領収、課外あそび

の領収などを正確に行うことができた。用務員の園内衛生・清掃業務も徹底しており、教員と事務部の円滑な連携協力は特筆できる。事務スタッフ、用務スタッフの業務に取り組む誠実な姿勢が幼稚園の支えとなっている。

②教務部、広報・保健・安全部、総務・管理部

運動プログラムの作成、課外あそび（サッカーあそび、ミュージカルあそび）の環境整備、ホームページのリニューアル、園庭遊具の安全点検、図書室の整理・蔵書点検等、各分掌が責任をもって業務を遂行した。分掌導入4年目になり分掌業務の定着が進んだ。

6. 教員の質向上と教員研修

外部研修参加者は、延92名で目標を達成した。園内研修は、教務部主催による幼稚園教育要領に基づいた教育・保育活動の振り返り研修を実施した。体験・参加型の研修を通して、教員間の意思疎通と保育・教育に関する知識の習得、スキルの向上を図ることができた。

7. グループの連携

コロナ禍ではあるが、都市大グループ、東急グループであるメリットをある程度活用することができた。学生サポーター制度による行事への参加学生は100名の予定であったが13名に留まった。幼稚園側と大学側の関係者でミーティングを行い、2023年度の幼大連携の具体化を検討した。等々力中高との連携では、理科部による年中組、年長組対象の科学体験教室を行うことができた。

8. 教育環境の整備

①非常口前転倒安全予防シート及びフェンス防御シートの張替え

サッカーあそびの場となる非常口前スペース安全対策として、転倒安全予防シート、フェンス防御シートの張替えを行った。球技場となるスペースの安全対策が行えたことで、ケガや転倒するリスクが低減した。園児からは、安心して遊べると感想が聞かれた。また学校保健委員会から非常口前転倒安全予防シートの破れやフェンス防御シートの腐食など危険箇所として指摘を受けていたため、保護者目線からの施設安全点検とその改善に取り組むことができた。

②園内 ICT 化について

園内の無線 LAN の整備が昨年度完了した。このことにより運動会、子どもの発表会、学級懇談会のライブ配信が可能となった。加えて、アプリ「てのりの」を活用した教育活動の様子を必要に応じて家庭に届けることができた。

9. 保護者の満足度調査

昨年度に引き続き卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が95.0%（昨年度82.0%）、やや満足が3%（昨年度14.8%）という数値であった。満足の割合が13ポイント上がった。これは、通常保育教育へのできる限りの転換と日々の保育教育活動に情熱をもって取り組んだ教員の努力の成果であろう。数値的には保護者の期待に応え、一定の評価が得られたと考えてはいるが、一方で厳しい意見は真摯に受け止め、改善を図っていきたい。

10. 志願者数の分析

2023年度園児募集では、65名が入園予定で、5名未充足である。世田谷区私立幼稚園協会（59園）の11月15日調査報告によると、3歳児の入園手続き数は昨年より594人少ない2,519人で、過去5年間で2,219人減少している。また、2023年4月の予想在籍園児総数は昨年より836人少ない7,227人が見込まれている。この減少傾向は今後も続くと予想され、募集活動の厳しさは一層増すと考える。定員確保は、保育教育活動の魅力をしっかりと発信していくことが重要である。説明会を実施するとともに、志願者増を目指し施設見学会や保育見学会の開催を多くしていきたい。今後は、特色ある教育の位置づけや預かり保育の更なる充実を図ることなどについて、教育・保育の差別化を前提とした議論を一層進めていきたい。

本園の志願者減の理由として、次のことが考えられる。①区内就園年齢児の減 ②施策による区内保育園増 ③施設見学会、保育見学会、公開行事の未実施 ④17時までとしている預かり保育 ⑤教育コンテンツの宣伝不足、⑦園長の途中交代

※最後に

コロナ禍の大きな出来事として、9月末での園長交代があった。教職員は、園児の健康と安全、命を守ることを第一とし、職場環境の変化に見舞われながら、未来に生きる子どもたちを育むために、情熱をそそぎ、心一つにして、使命感をもって教育・保育活動の維持・向上に努めてきた。2022年度を無事に終了できたのはそのためである。子どもたちが「今」を生きて「未来」に生きるために、深い愛情をもって一年間歩み続けた教員の姿に敬意を払いたい。その歩みを支えていただいた保護者の皆様に、心から感謝いたします。

学校関係者評価

◎学校評議員A

2022年度は、コロナ禍から少しずつ通常の園生活へ戻す大きな転換期でした。「通常に戻すことを念頭に置いた教育活動」という目標で取り組んだ一年でしたが、各行事や普通の園生活の様子を伺い、その目標をすべて達成できたと感じております。それは、教職員の皆様が丸一となり、子どもたち、保護者の方々に寄り添いながら、日々の教育活動に取り組んだ成果だと思えます。また、WEB出願に関しては、学校評議員の会でもお伝えしました通り、他園との併願を検討している出願者にとっては、WEB出願だと当日の試験集合時間や受験番号などが把握しづらいこともあり、出願人数が減った要因の一つと考えます。WEB出願時に、集合時間を前半、後半に分け、どちらの時間帯での出願かを選択できるようにするなど工夫が必要だと感じました。2023年度は、5月8日にコロナウイルスが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、さらに通常の園生活に近づけられることと思えます。二子幼稚園の魅力をより多くの方に知ってもらい、いつまでも地域から愛される幼稚園でいて欲しいです。

◎学校評議員B

【2022年度第2回東京都市大学二子幼稚園学校評議員の会全般について】

園長から、全般的な園の取り組み、現在に至るまでの年少組、年中組、年長組の成長を身近に感じられるお話をお聞きして、自ら幼児教育者として園児と過ごす日々であるように評議員として伺いました。そして配布資料「学校評価（自己評価）制度 2022年度実施報告書」では、要点項目は一覧表化されており、補足に先生方のご説明と続き、有意義な時間を持つことができました。

意見交換に移り、園長先生から評議員へ意見を述べる機会をいただくなど、コミュニケーションの拡大につながった。

預かり保育についてや年々の実施日数と時間の拡充、保護者からの要望、二子幼稚園教育と目指す方向性、園の先生方の人的負担や園経営、行政、世間の動向など、園では全般的整合性に配慮していることに期待するとともに応援したくなる会議であった。他には、卒園式の様子について、年少から年中、年長と成長し卒園された姿を一目見たかったという思いが残りました。また、web入試については、園の窓口の関係もあるかと思いますが、一部窓口入試受け付けも望みます。

◎学校評議員C

【全体について】

新型コロナウイルスの流行を受けての様々な制約が徐々に解放され、3月13日からマスク着用の判断が個人になり、貴園の保育内容もそれに沿って実施となった、と報告があった。卒園式もマスク無しでの内容となり、本来の姿になったことは喜ばしい。心配な保護者もいるかと思うが、丁寧に説明・理解を促し、従来通りの保育内容を実施できるよう期待したい。

今年度は途中で園長交代があったが、大きな混乱もなく年度末を迎えた。保護者の皆様に支えていただいた、と報告があったがよかったと思う。ややもすると保護者向け説明会の複数開催や多数の問い合わせ、署名活動など、保護者間も二分三分と乱れ、混乱してしまうものだが、そういうこともなく円滑に行われたことは評価したい。

【実施報告について】

各項目の内容はすべて達成されており、コロナ禍の保育内容としては満足する内容だと評価したい。平時ではない状況下で、できるだけ子ども同士の交わりを大切にしている工夫をしているようだ。

新しい課外あそび、ミュージカルあそび・サッカーあそびについてこの一年の報告があった。参加希望者も多く好評である。会の終盤では発表会があり、子どもの成長・体力の向上や普段の表現力のプラスアルファ、保育では見えづらかった一面が伺えたり、その様子を見た保護者も手ごたえがあったようだ。一方で途中の退会や男女比の偏り、出欠による参加費徴収の煩雑さがあったが、集金については外部委託することで解消した。課外活動と日常の保育内容との違い、外部講師による内容と保育教員による効果の違いなどを確認する必要があるであろう。あくまでも保育カリキュラムの一環として課外あそびがあるという基本を保護者にも理解を促していただきたい。

PC操作やスキルアップのために研修を重ねている。ICT化は時流として避けられないので、積極的に活用をお願いしたい。他園では当日の保育の様子をお迎えの時間に玄関や門扉の液晶ディスプレイで流しているところもある。また毎日web上にアップしている園もある。保護者からみると子どもの様子を見てとれる効果があり、親しみに繋がるらしい。また、園選びの時の参考にしたいという話を受験の親御さんから聞いたことがある。貴園もパステルという機能があるのなら、活用していただきたい。

WEB入試については、より詳細な説明があった。各委員からは、願書をもらう・出すことで子育ての実感がわく。併願の場合は、自分の順番がわからず、不安、など様々な意見感想が出た。新しい試みなので私たちもより関心が高い。コロナ禍の対応・ICT化として始まった面もあり、対面ではないための実施の顔・様子が見えない…という実態もある。気軽に応募…という心理はあるのか？他園の状況など、もう少し幅広く情報を得る必要があるだろう。

コロナ禍で保育形態の変更、少子化による園児数の減少、保護者の意識の変化＝サービスとして園の役割を求める…など様々な対応が求められた数年である。教職員も対応に追われ、今までにない変化があったはずだ。園長からは、今は踊り場状態、作り上げてきたものを定着させる、深めていきたい、とおっしゃっていたが、その通りだと思う、応援したい。

【最後に】

子ども家庭庁が本年4月から発足した。現政権も子供を中心に据えた政策を！という方針である。世間の注目が子ども、幼児に集まっている。これをチャンスと捉え、幼児教育の大切さを伝えていただきたい。子育ての実感がないままに、家庭での役割を園に任せがちな傾向になってしまっている。子育ては大変かもしれないけど、実りが多く楽しい！を積極的に啓発して欲しい。今後とも貴園の取り組みに期待します。

【自己評価基準（重点課題・その他の学校独自の課題・総合評価 共通）】

SS＝卓越した成果を上げた。 S＝目標を大きく上回る成果を上げた。 A＝目標を概ね達成した。

B＝一部成果はあったが、目標を達成していない。 C＝目標をはるかに下回る達成状況であった。

※「防犯ネット張替」「安全シート交換」「園庭花壇の整備」が完了し、子どもたちの更なる教育水準が向上したことをご報告させていただきます。

○非常口前転倒安全予防シート及びフェンス防犯シート整備報告

体力低下を防ぎながら、子どもたちが安全で楽しく身体を動かす機会（ボール遊び）を確保することができた。幼少期の取り組みにより、体力向上のみならず、将来的なスポーツ実施率が高まるものと期待する。子どもたちが安全にのびのびと遊べるようになったことは喜ばしい。

ボール遊びに特化したこのスペースは、ネット転倒安全予防シート、フェンス防犯シートの整備により、子どもたちは思う存分にボール遊びができるようになった。チームに分かれてサッカーごっこをする年長児、年中児の姿は、ボールを持つ、転がす、蹴る、走るなどのバランス感覚や視神経の発達が促され、スポーツの基本が養われていくものと思われる。

当初はぎこちない遊び方であったが、あそびを繰り返しているうちにボール（用具）を使った動作が上達し、ルールを決めて遊びを楽しむ姿が見受けられるようになった。ボールの種類、人数によって遊び方が変わる。幼児期のボール遊びは、運動神経の向上だけでなく、協調性の育みにもつながる。今後も安全性を確保し、多様なボール遊びができるように環境整備を行っていく予定である。

○花壇の整備報告

季節の花や植物を植栽して、身近に花や緑に触れる機会をつくることができた。水やりや観察を通して多種多様な植物に触れ、五感を働かせて、「あそびを通して、学びに向かう力、豊かな心、たくましい体を育てる」の教育の基本方針を実現できる。自然豊かな花のある環境で、感性豊かに理科的な学びに興味を持つ子どもたちの姿がある。

ベゴニアを植えるという活動を通して、愛着が生まれ、毎日の水やりなどの世話をしようという意識が子どもたちに生まれた。花を植える体験が初めての子もおり、花への関心、意識が全体的に高まった。子どもだけではなく、教員が環境を生かした保育教育をするようにもなった。

花の美しさに感動したり、花を遊びに取り入れる姿が子どもにみられるようになった。花の色や花のつくりにも関心が向いている。花を育てる体験が自然への関心や意識を醸成している。以前から、四季折々に花がある環境づくりに取り組んできたが、新たに花壇を増やしたことで、きれいな花を集めることを楽しんだり、色水をつくったり、飾りをつくったり、子どもたちの間で多様な活動が生まれている。

季節ごとに花の種類を替えて、子どもたちだけではなく、保護者や園を訪れる方々にも興味をもってもらえるような工夫をしていきたい。